

小脳腫瘍に hemifacial spasm (HFS) と不随意運動を伴った 小脳原性てんかんが疑われる 1 例

竹内真由美¹⁾ 安元 佐和¹⁾ 小川 厚²⁾
満留 昭久³⁾ 廣瀬 伸一¹⁾

- 1) 福岡大学医学部小児科
- 2) 福岡大学筑紫病院小児科
- 3) 国際医療福祉大学大学院
- 4) 榊原医院

要旨：小脳腫瘍を合併し、新生児期に発症した hemifacial spasm の11生月女児を報告した。生後数日より左眼のまばたきが多いことに気付かれ、6生月頃から眼球および頭部の左方偏位と四肢の伸展を伴い、数秒間持続する発作が1時間に4、5回出現した。てんかん発作との鑑別のため、複数回のビデオ脳波同時記録を行ったが、発作時、非発作時ともに異常所見は認めなかった。抗けいれん剤には抵抗性であり、頭部 CT、MRI で左上、中小脳脚を中心に第四脳室に突出する腫瘍を合併していた。小児の HFS 報告例14例中9例に小脳腫瘍を合併しており、発症時期は新生時期が多く、全例1歳以下であった。HFS のみでなく、眼球、頭部の偏位や四肢の不随意運動を伴うことが多い。小児の顔面の片側けいれんの病態は、小脳起源のてんかんの可能性が報告されており、成人における顔面神経の root entry zone での圧排とは病態が異なっている。

キーワード：小脳腫瘍， hemifacial spasm，小児，ビデオ脳波同時記録，小脳てんかん原性